

韓国語身体語彙慣用句の研究（1）

——韓国語教育・日韓比較文化論のために——

延 鎮 淑

1. はじめに

日本語と韓国語は、様々な面で似ている。さらに慣用句が多い点においても似ている。しかし、意味は、似ている用例もあれば、似ていない用例も多々ある。だから、日本人が韓国語学習時に、または逆の場合も言えることだけれども、似て非なる部分があるので、混同しやすい面を合わせ持っているため、慣用表現の学習は、極めて重要である。慣用句とは、「二語以上の語から構成され、句全体の意味が個々の語の元来の意味からは決まらないような慣用的な表現」（広辞苑第6版、2008）で、それを構成している単語の本来の意味とかけ離れた意味へと変化することが多く、それぞれの単語の意味を知っていても慣用句の意味が分からなければ、円滑にコミュニケーションが取れなくなってしまう場合が往々にして生じる。

ある場面では、母語に存在する慣用句をそのまま学習言語に置き換えて使うことも学習者には見られる¹。しかし、せっかく使った慣用句だが、それと意味の一致する慣用句が学習言語に存在するとは限らない。むしろ存在しないことが多いと言えよう。

外国語教育において、語彙項目や文法事項などを、どの段階で学習者に提示するかについてはかなり議論が分かれる部分である。これらについては外国語教育担当者が精緻に考えて行う場合や漫然と行う場合などさまざまな場合があると思われる。

コミュニケーションを行う上で重要と思われる慣用句を学習者に、どの段階で提示すべきかは簡単ではない。初級課程を基礎文法と基礎語彙と初歩的な実用会話の学習と考えるなら、最重要と思われる慣用句のいくつかを限定して提示するぐらいでいいだろう。慣用表現の学習は初級課程よりは中級か上級段階で提示すべき項目と考えている。

慣用句の選択にあたって今までの教育は、方法論に欠けていたと思われる。慣用句についての韓国語教育の方法論を考えたい。

表現法から考えると慣用句にはその国の独特の表現や言い回しなどが含まれていると考えられる。外国語教育の様々な側面からして慣用句をマスターすることは外国語、特に韓国語学習では重要と考えられる。

本稿では、現代韓国大学生の身体語彙慣用句の実態調査結果を基にして、教えるべき慣用句を選定したあと、日本の韓国語教育に活かしたい。

2. 研究目的

慣用句研究にあたり、本稿では韓国語慣用句の中でも身体語彙慣用句が占める割合が高い² ことから慣用句研究の切り口として、今回は身体語彙それも上半身中心の身体語彙に限定している。今後も引き続き、本稿で取り扱わなかった身体語彙慣用句、それ以外の慣用句に取り組んでいこうと考えている。

身体語彙慣用句は日常会話において重要な役割を果たす。韓国語を学習し、韓国語でコミュニケーションを行う場合、慣用句を上手に使うことによって、表現がより豊かになるだけでなく、話し相手である韓国人にも理解されやすくなるだろう。

身体語彙慣用句に関する日韓対照研究の先行研究の多くは、身体語彙慣用句の用例を新

聞や書籍から集め、それぞれが持っている意味的な役割や相違点などを考察したものが多
い。本研究は、このような日韓対照研究とは性格が異なり、慣用句の教育方法論と日韓
比較文化論の構築を目指している。

改めて本研究の目的を申し述べると、数多い韓国語の身体語彙慣用句のなかで韓国人が
知っており、実際に使っている慣用句について実地調査を行い、その成果を日本での韓国
語教育に活かし、韓国語教育に役立てることである。さらに、この研究の成果を基に日韓
比較文化論を構築し、日韓のよりよい文化交流に役立てることをも念願している。

韓国語の身体語彙慣用句は、数が非常に多い。しかし、辞書などに現れる慣用句のなか
には実際に使われていない慣用句も多く含まれている。実際に使われていない慣用句を教
えることは、実用的な会話を学習する段階では、必要ないことと思われる。そこで、現在
の韓国で実際に使われているものを調査して慣用句使用の実態を明らかにし、実態調査に
基づいて基本的な韓国語慣用句を教える方がいいと考えた。そこで次のような調査を行っ
た。

3. 調査する身体語彙の採択範囲

身体語彙の範囲は、見方によって異なる。和田(1967)は、「からだことば」という用語
として65項目に及ぶ身体語彙を挙げている。このなかには、いわゆる身体語彙以外に「涙、
汗」など身体分泌物と排泄物なども対象にしている。また星野(1976)は、身体語彙とし
て身体の部位を表すものの他にそこから派生する「力、熱、涙、痛み」などはもちろん、「気」
を使用した表現の一部も身体語彙による表現として考えている。

임팔용(林八龍)(2006)は、まず、大きく、「身体それ自体を対象にする場合」と、身体
それ自体ではないが、「身体に起因する諸現象と作用を対象にする場合」とに分けて考えて
いる。「身体それ自体を対象にする場合」は、「1次的なもの」と「2次的なもの」とに分け
る。「1次的なもの」とは最も基本的な身体部位で、このとき身体の各部位を部分として
把握するか、全体として把握するかによって、さらに二つに分けている。例えば、「頭、首、
顔、目、口、鼻、耳、胸、腹、肩、手、足」などは、「部分として把握できるもの」であり、
「体」や「骨、毛、皮、皮膚、筋肉、血、神経」などのように身体のある特定の部分とい
うよりも、ほとんど体全体にわたって作用するものは、「全体として把握できるもの」に属
すると述べている。そして「身体それ自体を対象にする場合」の「2次的なもの」とは、
例えば、「こぶ、ほくろ、しこり、しわ、しみ、えくぼ、白髪」のように必ず一定の部位と
は言いにくい性格のもので、これは表現の中でも比喩的、暗示的に変化して使われること
はまれであると述べている。一方、「身体に起因する諸現象や作用を対象にする場合」は、
「直接的で具体的なもの」と「間接的で抽象的なもの」に分けている。「直接で具体的なもの」
とは、身体による直接的な排泄物である。これに対して、「間接的で抽象的なもの」は、
「念、魂、考え、気、心」のように人間の精神と最も深い関係を持っているものだと言
っている。(同書 p.p14~19)

本研究では、임팔용(林八龍)(2006)に基づき、「身体それ自体を対象にする場合」のな
かで、特に「1次的なもの」を対象にし、「1次的なもの」のなかでも上半身に関するもの
を中心に韓国で調査を行った。

4. 調査の概要

韓国・清州大学の李暻洙先生にお願いし、学生86名を対象に、前に述べた採択範囲で
367項目の身体語彙慣用句を提示して、「知っている」、「実際に使っている」慣用句にチェッ
クをしてもらった。そして項目には含まれていないが、使っている慣用句があれば、記入
するようにお願いをした。調査に使用した367項目の慣用句は、韓国語学習者が一般的に
よく使う電子辞書(韓国シャープ製)に載っているものにした。

(表1)

内 容	韓国語の身体語彙慣用語の使用状況について (367 項目) 例: 귀가 어둡다 (日本語直訳: 耳が暗い) 배가 아프다 (日本語直訳: 腹が痛い) 他
対 象	清州大生
人 数	86 名
時 期	2007 年 9 月

5. 韓国大学生の慣用語使用状況

下記の(表2)から(表14)は、調査の結果に基づいて、韓国の身体語彙慣用語のなかでよく使われているものは何かを明らかにしたものである。

1) 가슴 (胸)

「 가슴 (胸) に関する慣用語」は、日本語と同様に喜び、感動、期待、動揺、苦痛、心配など人間の感情を表すものが多い。調査で提示した 22 項目のほとんどの慣用語について半数以上の学生が「使う」と答えた。全員が使うと答えたのは、15 番の「가슴이 부딪하다」である。9 番の「가슴이 두근 반 세 근 반 하다」の「두근 반 세 근 반」の元々の意味は「二斤半、三斤半」である。本来「두근두근 (ドキドキ)」になるはずのものが「두근 반 세 근 반 (二斤半三斤半)」になったのである。その理由は、韓国では、今現在も食材などの物 (唐辛子やお肉など) の量を量る場合に근 (斤) という単位が使われている。「두근두근 (ドキドキ)」は、「二斤 (두근)」を 2 度反復して言うときの発音と同じ発音から、引用されて、また心臓などの動機を表す擬態語の「두근두근 (ドキドキ)」と結びつき、それをさらに数字と結びつかせて「두 (2) 세 (3)」となり、それに「半」という刻み方までが加わり細かさや頻繁さを表す意味になって、「두 근 반 세 근 반 (二斤半三斤半)」と表現したのであると推察される。これは本来の意味とは程遠い意味になっていて面白い表現であるが、学習者には元の意味の類推はかなり難しいといえよう。

慣用語の表に関する見方 (以下表(2)~表(14)までこの示し方に従うこととする)

ア: 使用レベルの区別	A=80 人以上、B=75 人以上、C=70 人以上、 D=65 人以上、E=60 人以上、F=43 人以上とする。
イ: 使用人数計 (調査人数: 86 人)	

(表2)

番	慣用語	ア	イ	逐語訳 (日本語)	慣用語の意味 (日本語)
1	가슴에 멧히다	A	82	胸にこびりつく	心にわだかまりができる
2	가슴에 못을 박다	A	84	胸に釘を打つ	心を深く傷つける
3	가슴에 손을 얹다	A	81	胸に手を載せる	良心に依拠する・心静かに 思索をする
4	가슴을 앓다	C	73	胸を患う	ひどく心配する・苦痛だ
5	가슴을 에다		38	胸をえぐる	胸が痛い
6	가슴을 짓찧다		39	胸を突き砕く	心痛を感じる
7	가슴을 해쳐 놓다	F	57	胸を広げておく	胸を広げる
8	가슴이 내려 앉다	B	77	胸が崩れ落ちる	胸がギクッとする
9	가슴이 두근반세근반 하다	C	70	胸が二斤半三斤半する	胸がどきどきする
10	가슴이 뜨겁하다	A	82	胸がひりっとする	胸がドキッとする
11	가슴이 막히다	E	60	胸が詰まる	辛くて思苦しい
12	가슴이 미어지다	A	82	胸が裂けそう	胸が張り裂けそう
13	가슴이 불이 붙다	F	56	胸に火がつく	胸が熱くなる・胸焦がれる

14	가슴이 빠른하다	F	51	胸が凝る	胸がいっぱい
15	가슴이 뚫듯하다	A	86	胸がいっぱい	胸がいっぱい
16	가슴이 설레다	A	83	胸が騒ぐ	胸がわくわくする
17	가슴이 섬뜩하다	D	68	胸がヒヤッとする	ぞっとする・ぎくっとする
18	가슴이 아프다	A	80	胸が痛い	胸が痛む
19	가슴이 찢리다	D	66	胸が刺さる	良心がとがめる
20	가슴이 찢어지다	A	84	胸が破れる	胸が張り裂ける
21	가슴이 타다	B	78	胸が焼ける	いらいらする
22	가슴이 터지다	C	74	胸が裂ける	胸が張り裂ける

2) 간 (肝)

調査で提示した「간 (肝) を使う慣用句」は、胆力、恐怖、不満などの意味として使われる。意味において、胆力、恐怖を表すという面では、両国語において一致しているが、片方にのみ現れるものがそれぞれある。日本語にはあって、韓国語にない表現は、「肝に銘ずる」にあたる韓国語の慣用句である。そして韓国語にあって、日本語にない表現は、30番「간에 기별도 안간다」のような「不満足」である。量が足りなくて十分に食べられなかったため胃袋が膨らまなくて、その胃袋が肝まで届かないということである。

全員が使うと答えた、使用レベルの度合い A を表している例は、40番「간이 콩알만 하다」であり、これに直接あたる表現としては強いて言えないわけではないが、慣用句的な表現より語彙表現として表されている。

(表 3)

番	慣用句	ア	イ	逐語訳 (日本語)	慣用句の意味 (日本語)
23	간 빼먹고 등쳐먹다	D	67	肝を抜いて食べ背中を食べる	集る
24	간담이 내려앉다	E	60	肝胆が崩れ落ちる	どきりとする・ぎくっとする
25	간담이 떨어지다		53	肝胆が落ちる	どきりとする・ぎくっとする
26	간담이 서늘하다	A	80	肝胆が涼しい	驚く
27	간담이 한 움큼 되다		21	肝胆が一握りになる	肝をつぶす
28	간덩이가 붓다	A	81	肝が膨れあがる	大胆になる
29	간덩이가 크다	C	71	肝が大きい	肝つ玉が太い
30	간에 기별도 안간다.	A	80	肝に知らせも行かない	量が足りなくて食べた気がしない
31	간에 바람이 들다		41	肝に風が入る	荒唐無稽な考えでいい加減だ
32	간에 불 붙었다		20	肝に火がつく	ことが急だ
33	간에 차지 않다		33	肝に満たない	量が少なく満足できない
34	간을 녹이다	F	47	肝を溶かす	心をとろかす・気苦労をさせる
35	간을 졸이다	D	67	肝を揉む	気を揉む
36	간이 녹다		36	肝が溶ける	心を奪われる・気苦労する
37	간이 떨어지다	D	66	肝が落ちる	肝をつぶす
38	간이 붓다	A	80	肝がはれる	あることを平気で出来る
39	간이 오그라들다	D	66	肝が縮む	とても怖がる
40	간이 콩알만하다	A	86	肝が豆のようだ	怖くなっている
41	간이 크다	B	79	肝が大きい	胆力がある・勇気がある
42	간장을 끓다		41	肝臓を沸かす	非常に悲しく、切ない
43	간장을 녹이다	D	69	肝臓を溶かす	ひやひやする
44	간장을 태우다	C	74	肝臓を燃やす	心配する
45	간장이 사라지다		18	肝臓がなくなる	とても驚いて肝が溶けてなくなる・びっくりする
46	간장이 썩다		26	肝臓が腐る	気に食わない
47	간장이 타다	F	50	肝が燃える	胸焦がれる

3) 귀 (耳)

「귀 (耳) に関する慣用句」は、日本語も韓国語も「聴く」に関わる表現が主である。使用レベルの度合いが A である慣用句のなかで、両国語において慣用句を構成する単語が同様のものは、48 番「귀 기울이다 (耳を傾ける)」、50 番「귀가 가렵다 (耳がかゆい)」、65 番「귀에 거슬리다 (耳障りだ)」である。50 番のような表現は日本語表現ではあまり使われていないようであるが、韓国語表現ではよく使われている表現である。そして 65 番のような例も日本語表現ではどちらかというところ「気に障る」の表現が的確かも知れない。ただ、韓国語の慣用句表現としては欠かせない表現である。

同様の意味を持ちながら、構成単語が異なるものの中で注目すべきものは、「耳が遠い」と「耳にたこができる」である。韓国語の慣用句では、「耳が遠い」を「귀가 어둡다 (耳が暗い)」、「耳にたこができる」を「귀에 못이 박히다 (耳に釘が刺さる)」のように表現される。

なお、全員が使っていると答えた、使用レベルの度合い A は、55 番「귀가 솔깃하다 (その気になっている)」である。

(表 4)

番	慣用句	ア	イ	逐語訳 (日本語)	慣用句の意味 (日本語)
48	귀 기울이다	A	83	耳を傾ける	耳を澄ます・耳を傾ける
49	귀 밖으로 들다		25	耳の空で聞く・ 耳のそとで聞く	注意深く聴かない
50	귀가 가렵다	A	83	耳がかゆい	人が私の噂をしているらしい・耳がかゆい
51	귀가 따갑다	D	68	耳が痛い	うるさい・耳にたこができる・耳が痛い
52	귀가 뚫리다	F	58	耳が開く	道理が見出される
53	귀가 밝다	C	74	耳が明るい	聴覚がいい・耳がいい
54	귀가 번쩍 뜨이다	B	75	耳がぱっと開く	思わずぱっとする (こと)
55	귀가 솔깃하다	A	86	耳がはっと傾く	乗り気になる・気持ちは傾く
56	귀가 솔리다		25	耳が傾く	興味が持てる
57	귀가 아프다	E	62	耳が痛い	音がうるさくて耳が痛い
58	귀가 어둡다	A	80	耳が暗い	耳が遠い・世間のうわさ、情報などにうとい
59	귀가 여리다		16	耳が弱い	だまされやすい・人の話などをそのまま信じやすい
60	귀넘어 들다		37	耳を取り越して聞く	注意深く聴かない・上の空だ
61	귀담아 들다	A	85	耳でまとめて聞く	注意深く聴く
62	귀를 쓰다		10	耳を明ける	人や動物が生まれてから初めて耳が開くようになる・耳で聞き始める
63	귀를 세우다	F	51	耳を立てる	聞き耳を立てる
64	귀를 의심하다	C	71	耳を疑う	耳を疑う・聞き間違えたと思う
65	귀에 거슬리다	A	80	耳に障る	耳障りだ
66	귀에 거칠다		16	耳にあらい	聴くに耐えない・聞き苦しい・耳に障る
67	귀에 걸리다	E	60	耳に引っかかる	耳に障る
68	귀에 들어가다		41	耳に入る	他人に知られる・人の耳に入る
69	귀에 못이 박히다	A	82	耳に釘が刺さる	耳にたこができる
70	귀에 설다		13	耳に慣れない	耳慣れない
71	귀에 익다	B	79	耳に慣れる	耳に慣れる

4) 눈 (目)

「눈 (目) に関する慣用句」は、他の部位に比べて数が最も多い。事物を見ることから始まって、そこからさらに広がり、様々な感情表現までを表している。

108番「눈이 높다 (目が高い)」において、日本語の「目が高い」は、「良い物を見分ける目がある」という意味として使われることが普通であるが、韓国語の「눈이 높다 (目が高い)」は、「理想が高い」という意味で使われている。慣用句を構成している単語は同じであっても表す意味においては意味のズレがある。

48項目の用例のうち使用レベルの度合いがAであるものは、8項目の慣用句しかない。これは全体の慣用句表現を通して言えることであるが、用例が多いほどそれぞれの使用レベル度合いは低くなり、また用例数が少ないほど使用レベルの度合いは高くなる傾向がある。

(表5)

番	慣用句	ア	イ	逐語訳 (日本語)	慣用句の意味 (日本語)
72	눈 밖에 나다	B	79	目の外に出る	疎まれる
73	눈 앞이 캄캄하다	A	84	目の前が暗い	目先真っ暗だ
74	눈도 깜짝 안 하다	A	84	目もパッチパッチとさせない	驚かない・平然としている
75	눈독을 들이다	C	71	目の毒 (ねらい目) を入れる	物欲しげに見る・狙う
76	눈독이 들다	F	57	目の毒が入る	物欲しげな目つきになる
77	눈에 거슬리다	A	86	目に障る	不快だ・目障りだ
78	눈에 거칠다		26	目に粗い	目障りだ
79	눈에 걸리다	B	63	目にひっかかる	目障りだ
80	눈에 넣어도 아프지 않다	A	84	目に入れても痛くない	目に入れても痛くない 非常にかわいがる
81	눈에 들다	C	72	目に入る	気に入る
82	눈에 띄다	A	84	目につく	目に付く
83	눈에 모를 세우다		14	目に角を立てる	目くじらを立てる
84	눈에 밟히다	B	79	目に踏まれる	(忘れられなくて) 目にありありと浮かぶ
85	눈에 불을 켜다	A	81	目に灯をつける	欲張る・目を光らす
86	눈에 불이 나다	F	55	目に灯がでる	予想外のことをされて、腹が立つ
87	눈에 선하다	A	84	目にちらつく	記憶にはっきり残っている・目に見えるようだ
88	눈에 쌍심지가 오르다	F	50	目に二筋の灯心があがる	目を三角にして腹を立てる
89	눈에 쌍심지를 켜다	C	73	目に二筋の灯心をつける	腹立てた目をする
90	눈에 어리다	F	58	目にちらつく	目に浮かぶ
91	눈에 없다		39	目にない	眼中にない
92	눈에 이슬이 맺히다	C	70	目に露が結ばれる (宿る)	(比喩的に) 音もなく涙が出る
93	눈에 익다	A	84	目になれる	見覚えがある
94	눈에 차다	F	56	目に満ちる	満足する
95	눈에 칼을 세우다	F	43	目に刀をたてる	目を三角にしてにらみつける
96	눈에 풀칠하다		27	目にのりを塗る	目を閉じてものをみる (見間違える)
97	눈에 헛거미가 잡히다		18	目にニセのクモがとらわれる	非常にお腹がすく・欲望がこみ上げてくる
98	눈에 흙이 덮이다		26	目に土が覆われる	死ぬ
99	눈에 흙이 들어가다	B	78	目に土が入る	死ぬ
100	눈에서 번개가 번쩍 나다	F	57	目に雷がピカッとでる	目から火がでる
101	눈에서 황이 난다		9	目から違った札 (骨牌) が出る	予想外の札が出て、狼狽する
102	눈을 맞추다	B	79	目を合わせる	目を合わせる
103	눈을 밝히다	F	58	目を照らす	何かを真剣に探す

104	눈을 붙이다	F	58	目を貼り付ける	小憩を取る・少し眠る
105	눈을 주다		34	目をやる	目で合図をする・目を向ける
106	눈이 가다	F	55	目がいく	目がいく
107	눈이 꺼지다		28	目が消える	目がくぼむ
108	눈이 높다	B	79	目が高い	目が高い(理想が高い)
109	눈이 뒤집히다	B	78	目がひっくり返る	衝撃なことやあることに執着して理性を失う
110	눈이 등잔만 하다		30	目が灯盞くらいになる	(驚きや怖さで)目を皿にする
111	눈이 많다	F	54	目が多い	見ている人が多い
112	눈이 맞다	F	51	目があう	目が合う・愛情が通じ合う
113	눈이 빠지도록 기다리다	C	72	目が抜けるほど待つ	首を長くして待つ
114	눈이 빠다	C	73	目がはずれる	見る目がおかしい
115	눈이 시퍼렇게 살아있다	F	54	目が真っ青で生きている。	びんびんに生きている
116	눈이 캄캄하다	B	79	目が暗い	目の前が真っ暗だ
117	눈이 휘둥그레지다	B	79	目が真ん丸くなる	驚きや恐怖で目が大きくなる・目を皿にする
118	눈총을 맞다	F	50	きつい目つきに当たる	人のいやみを買う・きつい目で睨まれる
119	눈총을 쏘다	F	48	きつい目つきを撃つ	きつい目でにらむ

5) 등 (背)

「등 (背) に関する慣用句」は、他の部位に比べて数が非常に少ない。少ないのは韓国語だけではなく、日本語にも同じく少ない。背を使った慣用句が少ない理由として考えることは、情報を手する器官ではないことと他の部位に比べて、感覚が発達していないことに関係すると考えられる。

実際使われている慣用句も提示した数の半数以下である。しかし、少ないなかでも全員使うと答えた慣用句がある。それは123番「등골이 오싹하다」である。ただ125番の「등살을 대다」の「등살」は、韓国語の濃音化発音規則により124番の「등살」と同じ発音であるので、うっかり取り違えやすい関連例として挙げてあるが、125番は身体語彙慣用句ではないことを付しておく。

(表6)

番	慣用句	ア	イ	逐語訳 (日本語)	慣用句の意味 (日本語)
120	등골을 뺏다		39	脊椎骨を抜く	しぼり上げる・浪費される
121	등골이 빠지다	A	84	脊椎骨が抜ける	苦勞をする
122	등골이 서늘해지다	B	79	脊椎骨が寒くなる	ぞっとする
123	등골이 오싹하다	A	86	脊椎骨がぞっとする	ぞっとする
124	등살이 바르다		15	背筋がまっすぐだ	神経の異状により背筋が強張り屈伸がきかない
125	등살을 대다		21	背筋をつける	うるさい
126	등에 업다	E	62	背中に背負う	人、勢力などに頼る・当てるにする
127	등을 대다		41	背中に当てる	人、勢力などに頼る・当てるにする
128	등을 돌리다	C	73	背中を向ける	背を向ける・排斥する・決別する
129	등을 벗겨 먹다		38	背中を剥して食べる	人の財産を奪い取る
130	등을 타다		20	背中に乗る	尾根伝いに行く
131	등이 달다		9	背中が煮詰まる	気が気でない やきまきする

132	머리가 달다	33	背中に届く	頼れる・縁故がある
-----	--------	----	-------	-----------

6) 머리 (頭)

提示した慣用句の中で、使用レベルが A である慣用句は、苦悩、知恵、相談、冷静、記憶、未熟などの表現に分類される。

日本語の場合、「頭にくる」、「頭に血がのぼる」など「怒り」の表現があるが、こういった「怒り」の表現は、韓国語には使用レベル A に限らず、見当たらない。韓国語の場合、「怒り」を表す慣用句には「열받다 (熱があがる)」がある。これは結局頭が熱くなることであろうが、実際使う時には、「頭」が登場することはあまりない。

163 番「머리를 엮다」は、実際に使うと答えた学生は少ないが、時々時代劇から聞こえてくる。この慣用句は、韓国語の古い髪文化と関連がある。昔、未婚の女性は、髪を長く伸ばして、頭の後ろで一本に編んで垂らしていた。結婚とともにその髪を上へ上げ丸めてかんざしを挿したのである。そのような理由で「머리를 엮다」は「結婚をする」という意味で使う。173 番の「머리에 피도 안 마르다」は、生まれて間もないという意味で、未熟であり、幼いという意味である。

(表 7)

番	慣用句	ア	イ	逐語訳 (日本語)	慣用句の意味 (日本語)
133	머리가 가볍다	F	54	頭が軽い	頭が軽い
134	머리가 굳다	F	51	頭が固まる	頭が固い
135	머리가 굵다		31	頭が太い	大人に成長する
136	머리가 깨다		37	頭が割れる	捌けている
137	머리가 돌다	E	62	頭が回る	気が狂う
138	머리가 돌아가다	E	60	頭が回っていく	頭の回転が速い
139	머리가 무겁다	A	84	頭が重い	頭が重い・気分がすぐれない
140	머리가 복잡하다	A	85	頭が複雑だ	悩みが多い・頭が混乱している
141	머리가 수그러지다		38	頭が下がる	頭が下がる
142	머리가 썩다		42	頭が腐る	頭が働かなくなる
143	머리가 아프다	B	79	頭が痛い	頭痛がする・悩ましい 神経を使って気分が優れない
144	머리가 젖다		25	頭が濡れる	思想、因習などに染まる 凝り固まる
145	머리가 크다	C	72	頭が大きい	大人になる
146	머리끝에서 발끝까지	B	78	髪のでつべんから足先まで	何から何まで・頭の天辺から足の爪先まで
147	머리끝이 쭈뼛쭈뼛하다	B	77	髪の手が突っ立っている	恐ろしい・怖い
148	머리를 굴리다	A	83	頭を回転させる	悪知恵が働く・頭を回転させる
149	머리를 굽히다	E	61	頭をかかめる、頭を曲げる	頭を下げる (相手の意見を認めることで)
150	머리를 깎다	C	71	頭を剃る	服役する・頭を刈る・髪を下ろす
151	머리를 깎였다	F	51	頭を刈られる	(強制にあることを) やらされる
152	머리를 내밀다	E	60	頭を突き出す	場所などに存在を示す・存在感を出し始める
153	머리를 들다	F	59	頭を上げる	頭を上げる
154	머리를 맞대다	A	80	頭を突き合わせる	一緒に相談事をする (じっくり話をするために向かい合うこと)
155	머리를 모으다	C	71	頭を集める	額を集める
156	머리를 숙이다	C	74	頭が下がる	感服する
157	머리를 스치다	F	53	頭をかすめる	頭をよぎる
158	머리를 식히다	A	82	頭を冷やす	頭を冷やす・冷静にする
159	머리를 싸고	F	50	頭を包んで	鉢巻をして・病気で布団をかぶって

160	머리를 싸매다	A	83	頭を包む	(真剣なさまで) 考える
161	머리를 썩이다	F	51	頭を腐らせる	悩む・頭を痛める
162	머리를 쓰다	B	77	頭を使う	頭を使う
163	머리를 얹다		19	髪を頭に乘せる	嫁ぐ・髪を頭の上に巻き上げる
164	머리를 얹히다		16	髪を結わせる、結婚させる	結婚させる
165	머리를 쥐어짜다	A	85	頭を絞り出す	熱心に工夫する
166	머리를 짓누르다	F	59	頭を押さえつける	頭を押さえつける・精神的に圧迫感がある
167	머리를 풀다	F	44	頭を解く	喪に服する
168	머리를 흔들다	D	67	頭を振る	拒絶する・否定する
169	머리악을 쓰다		8	頭の全ての力を使って喚く	全てを使ってじゃまをする(こと)
170	머리에 그리다	E	63	頭に描く	頭の中に描く・想像する
171	머리에 새겨넣다	B	76	頭に刻み入れる	しっかり憶える
172	머리에 서리가 앉다		32	頭に霜が座る	髪が白くなる
173	머리에 피도 안 마르다	A	81	頭に血も乾かない	青臭い

7) 고개 (首) と 목 (首・喉)

ここでは高개 (首) と 목 (首・喉) を一緒に扱うことにする。韓国語の高개의原意は首であるが、頭を表す場合もあり、そして목の原意は喉であるが、喉の部位的な意味合いから首を表す場合もある。

韓国語	日本語	表の用例文から
고개	首	176
	頭	174, 175, 177, 178, 179
목	首	184, 185, 187, 188, 189, 190, 191, 192, 193, 194, 195, 196, 197, 198, 199, 200
	喉	180, 181, 182, 183, 186, 201, 202

29 項目の慣用句のうち使用レベル度合いが A であるのは、178 番の「고개를 숙이다」と 202 番「목이 타다」と二つしかない。202 番「목이 타다」は、「のどが渴く」という意味だが、日本人学習者にとっては、そのような意味よりも辛いものを食べたときの辛さと取ることが多い。

そして日本語は傲慢な態度を意味する慣用句は、ほとんど見当たらないのに対して、韓国語は、188 番「목에 힘을 주다」、200 番「목이 뻐뻐하다」のように傲慢、生意気さを表す慣用句が現れている。

(表 8)

番	慣用句	ア	イ	逐語訳 (日本語)	慣用句の意味 (日本語)
174	고개 하나 까딱하지 않다	B	76	頭 (首) ひとつ動かない	気持ちの動揺がなく、身じろぎにない
175	고개가 수그러지다	D	65	頭 (首) が自ずと下がる	尊敬する気持ちになる
176	고개를 가웃거리다	B	79	首をかしげる	よく理解が出来ず、不思議に思う
177	고개를 들다	C	73	頭 (首) を上げる	(勢いなどで) 頭をもたげる
178	고개를 숙이다	A	82	頭 (首) を下げる	大人しくする・謙遜だ
179	고개를 젖다	B	76	頭 (首) を振る	否定する・否認する・首を横に振る
180	목구멍 때도 못 씻었다		32	喉の穴の垢も洗えなかった	食べ物が少ない、あまり食べられなかった
181	목구멍에 풀칠하다	B	76	喉の穴にのりを塗る	どうにかこうにか暮らす
182	목구멍의 때를 벗기다	F	44	喉の穴の垢を落とす	久しぶりにご馳走にあり

					つく
183	목구멍이 크다	F	48	喉の穴が大きい	食べる量が多い・欲が深い
184	목대를 잡다		26	首そのものをつかむ	多くの人をリードして仕事させる
185	목덜미를 잡히다	B	76	首の付け根をつかまれる	弱みが露見する
186	목에 거미줄 치다	E	61	喉にクモの糸を張る	飢えている
187	목에 핏대를 세우다	B	78	首に血管を立てる	興奮する
188	목에 힘을 주다	B	78	首に力を入れる	傲慢な態度を取る
189	목을 걸다		30	首をかける	命をかける
190	목을 따다	D	67	首をとる	首をはねる
191	목을 베다	C	70	首を切る	首をはねる
192	목을 빼다	E	60	首を抜く	首を長くして待つ
193	목을 자르다	D	65	首を切る	クビにする
194	목을 조이다	B	77	首を絞める	相手の弱点をにぎって、じわじわ締め上げる
195	목을 축이다	C	71	首を濡らす	のどを潤す
196	목이 간들간들하다		38	首がゆらゆらする	厳しい状況にある
197	목이 날아가다	C	71	首が飛んでいく	クビになる・首を切られる
198	목이 붙어있다	E	61	首がついている	まだ首がつながっている
199	목이 빠지다	C	74	首が抜ける	首を長くして待つ
200	목이 뻣뻣하다	C	70	首が硬い	生意氣だ・頑固だ
201	목이 잠기다	C	70	喉がかすれる	喉がかわる
202	목이 타다	A	80	喉が燃える	喉が渇く

8) 배 (腹)

「배 (腹) に関する慣用句」は、日本語に比べて数が少ない。調査で提示した慣用句 23 項目のうち使用レベル度合い A であるのは、204 番「배가 남산만하다」と 206 番「배가 아프다」だけである。

204 番「배가 남산만하다」は、臨月を迎えた妊婦のお腹の様子をさして言うことが最も一般的な意味である。ここでの「남산」は、ソウル市内の景勝地の 1 つである山のことをさしており、お腹が南山のように大きいことを言っているのである。そして 206 番「배가 아프다」は、主に慣用句では嫉妬の意味として使われている。

この他、「배 (腹) に関する慣用句」は、笑い、裕福な生活、本心などを意味している。

(表 9)

番	慣用句	ア	イ	逐語訳 (日本語)	慣用句の意味 (日本語)
203	배 때가 벗다		8	腹の垢が取れる	あつかましい・ずうずうしい
204	배가 남산만하다	A	83	腹が南山 (韓国ソウルの代表的な山) のようだ	傲慢だ・妊婦のお腹がはち切れそうだ
205	배가 맞다		16	腹があう	気が合う・情が通じる
206	배가 아프다	A	81	腹が痛い	腹が痛い・嫉妬する
207	배꼽 밑에 털나다		35	へその下に毛が生える	大人になる
208	배꼽을 빼다	F	59	へそをとる	大笑いする
209	배꼽을 쥐다	B	78	へそを握る	大笑いする
210	배꼽이 웃다		44	へそが笑う	ばかばかしい
211	배를 내밀다	F	56	腹を突き出す	ごり押しする
212	배를 두드리다	F	58	腹を叩く	楽に暮らす
213	배를 불리다	F	50	腹を膨らます	腹を肥やす
214	배를 앓다	F	56	腹を患う	腹が痛い・人を嫉む
215	배알이 꼴리다	F	57	腸が立つ	はらわたが煮えくり返る
216	배알이 뒤집히다	F	53	はらわたがひっくり返る	はらわたが煮えくり返る
217	배에 기름이 오르다		26	腹に脂が乗る	豊かになる

218	배의 때를 벗다		16	腹の垢が取れる	豊かになる
219	배짱을 내밀다	F	49	腹の中を押し出す	ごり押しする
220	배짱을 부리다	B	78	腹の中を用いる	勝手な態度を取る
221	배짱을 똥기다		37	腹の中をはねのける	勝手な態度を取る
222	배짱이 맞다		29	腹の中が合う	気持ちが通じる
223	배짱이 세다	B	77	腹の中が強い	心機が強い
224	배짱이 좋다	B	79	腹の中がいい	度胸がいい

9) 손 (手)

「손 (手) に関する慣用句」も両国語ともに数が多い。手は動作性のある部位であって、手の動作に関わる意味のものがほとんどである。提示した慣用句 52 項目のうち使用レベル度合い A であるのは、4 つに過ぎない。232 番「손에 땀을 쥐다」、264 番「손이 뻐다」、265 番「손이 발이 되도록 빌다」、276 番「손이 크다」である。265 番「손이 발이 되도록 빌다」は、「ひたすら謝る」の意味を表しているが、子供が謝る時のしぐさとして、手を合わせて擦るような行動をしながら謝るところから来ているとされている。

(表 10)

番	慣用句	ア	イ	逐語訳 (日本語)	慣用句の意味 (日本語)
225	손바릇이 사납다	C	73	手癖が荒い	手癖がわるい・手が長い
226	손뼉을 치다	B	75	手をたたく	賛成する・手をたたく
227	손사래를 치다	E	64	手のひらを振る	手を広げてやたらに横にする否定の手振りをする
228	손아귀에 넣다	B	79	手の股に入れる	掌中に入れる
229	손안에 넣다	B	75	手の中に入れる	手中に収める
230	손안에 놓인 듯	E	60	手の中に置かれたように	自分の物にしたように
231	손에 걸리다	F	56	手にかかる	手にかかる
232	손에 땀을 쥐다	A	86	手に汗を握る	手に汗を握る
233	손에 붙다	F	47	手につく	手につく
234	손에 손을 잡다	C	72	手に手をとる	手に手をとる
235	손에 익다	B	77	手になれる	手慣れる
236	손에 잡히다	B	78	手に取られる	手につく
237	손에 잡힐 듯하다	B	78	手にとれそうだ	手に取れそうだ
238	손에 쥐다	C	74	手に握る	手に握る
239	손을 끊다	F	49	手を切る	手を切る・縁を切る
240	손을 나누다	F	45	手を分ける	分担する
241	손을 내밀다	B	76	手を出す	ものを要求する 手を差し伸べる
242	손을 넘기다	F	47	手を渡す	時期を逸する
243	손을 놓다	C	73	手を放す	中断する
244	손을 늦추다		41	手を遅らせる	手を緩める
245	손을 뻐다	C	74	手を放す	手を引く
246	손을 맞잡다	C	74	手を取り合う	手を取り合う
247	손을 맺다		31	手を結ぶ	手をこまめく
248	손을 멈추다	F	43	手を止める	手を休む
249	손을 벌리다	C	73	手を広げる	ものを要求する
250	손을 붙이다		39	手をつける	手をつける
251	손을 빼다	F	56	手を抜く	手を引く
252	손을 뻗치다	D	69	手を伸ばす	手を伸ばす
253	손을 씻다	B	79	手を洗う	手を洗う・堅気になる
254	손을 젓다	F	45	手を振る	拒絶する
255	손을 주다	F	45	手をやる	手入れをする
256	손을 털다	D	68	手を払う	元手をはたく・足を洗う

257	손이 거칠다	D	67	手が荒い	手癖が悪い・(仕事)雑だ
258	손이 나다		16	手が出る	手が空く
259	손이 놀다	F	43	手が遊ぶ	手が空く
260	손이 닿다	F	46	手が届く	手が届く
261	손이 뜨다		19	手が遅い	仕事が遅い
262	손이 맑다		20	手がきれい하다	財運に恵まれない・けち다
263	손이 맞다		27	手が当たる	馬が合う
264	손이 맵다	A	81	手が辛い	手の力が強い・しっかりしている
265	손이 발이 되도록 빌다	A	85	手が足になるように わびる	懇願する
266	손이 비다		29	手が空く	手が空く
267	손이 빠르다	B	77	手が早い	手が早い
268	손이 서투르다	B	76	手が下手하다	手慣れていない
269	손이 싸다		33	手が早い	手が早い・仕事がはやい
270	손이 어울다		37	手が美る	手先が器用だ
271	손이 작다	B	76	手が小さい	気前がよくない・けち다
272	손이 잠기다		15	手が浸かる	仕事に縛られて抜け出せない
273	손이 재다		20	手が早い	手が早い
274	손이 저리다	D	67	手が痺れる	手が痺れる 以外の状況に驚き、慌てる
275	손이 짜이다		12	手が組まれる	格式や体制にびつたりだ
276	손이 크다	A	80	手が大きい	気前がいい

10) 어깨 (肩)

「어깨 (肩) に関する慣用句」は、他の部位に比べて数が少ない。慣用句の意味としては、責任、威勢、競争などに関するものが多い。使用レベル度合い A であるのは、278 番「어깨가 무겁다」、280 番「어깨가 으쓱거리다」、そして 285 番「어깨를 나란히 하다」である。「어깨가 무겁다」は、日本語直訳では、「肩が重い」の意であり、意味は「責任が重い・重責を担う」である。日本人学習者は、この慣用句に対して、肩こりを連想するようである。

日本語の「어깨 (肩) に関する慣用句」には、「肩を持つ」などのような支援、賛同の意味を表現するものが存在するが、韓国語には見当たらない。

(表 11)

番	慣用句	ア	イ	逐語訳 (日本語)	慣用句の意味 (日本語)
277	어깨가 가볍다	D	69	肩が軽い	責任が軽い
278	어깨가 무겁다	A	85	肩が重い	責任が重い・重責を担う
279	어깨가 움츠러들다	B	77	肩が縮こまる	縮こまる
280	어깨가 으쓱거리다	A	80	肩をそびやかす	尊大ぶる
281	어깨가 처지다	C	72	肩が沈む	しょんぼりしている
282	어깨로 숨을 쉬다		21	肩で息をする	肩で息をする
283	어깨를 겨우다	F	56	肩を競う	競い合う
284	어깨를 걸다		12	肩を組む	腕を組む
285	어깨를 나란히 하다	A	81	肩を並べる	肩を並べる・競争相手になる
286	어깨를 으쓱거리다	B	78	肩をそびやかす	自慢する・自信がある 肩をそびやかす

11) 얼굴 (顔)

使用レベル度合い A であるのは、288 番「얼굴에 똥칠을 하다」、289 番「얼굴에 먹칠을 하다」、291 番「얼굴에 철판을 깔다」、296 番「얼굴이 두껍다」である。顔というのは、その人の代表となるもので、恥や体面、ずうずうしさを表現するものが多い。「얼굴에 똥칠을 하다」と「얼굴에 먹칠을 하다」は恥や体面のことを、「얼굴에 철판을 깔다」

と「얼굴이 두껍다」は、ずうずうしさのことを表現したものである。

(表 1 2)

番	慣用句	ア	イ	逐語訳 (日本語)	慣用句の意味 (日本語)
287	얼굴에 노랑꽃이 피다		21	顔に黄色い花が咲く	顔が黄色くはれていて病人の顔色だ
288	얼굴에 뽕칠을 하다	A	81	顔にウンチ塗りをする	恥をかく
289	얼굴에 먹칠을 하다	A	82	顔に墨塗りをする	恥をかく
290	얼굴에 외꽃이 피다		9	顔に黄色い花が咲く	顔が黄色くはれていて病人の顔色だ
291	얼굴에 철판을 깔다	A	80	顔に鉄板を敷く	ずうずうしくする
292	얼굴을 깎다	F	44	顔を切る	面子をなくす
293	얼굴을 내밀다	D	68	顔を出す	顔を出す
294	얼굴을 팔다	B	76	顔を売る	自分を売る
295	얼굴이 팽파리같다		11	顔が鐘のようだ	(比喩的に) ずうずうしい
296	얼굴이 두껍다	A	75	顔が厚い	ずうずうしい
297	얼굴이 뜨겁다	B	78	顔が熱い	恥ずかしい
298	얼굴이 반쪽이 되다	B	78	顔が半分になる	苦労や病気でやつれている
299	얼굴이 팔리다	B	77	顔が売られる	顔が知られる・有名になる
300	얼굴이 피다	E	63	顔が咲く	色気づく・余裕ができる
301	낯을 붉히다	B	77	顔色を赤くする	恥ずかしがる
302	낯이 깎이다		20	顔が削られる	面子がなくなる
303	낯이 두껍다	B	79	顔が厚い	ずうずうしい
304	낯이 뜨겁다	B	76	顔が熱い	恥ずかしい

1 2) 입 (口)

口は、「食べる、喋る」行為をする身体部位であることから、他の部位と同様その器官の行為と関連する表現が多く、感情表現は、321番「입술을 깨물다」のほかにはあまりない。使用レベル度合いAである慣用句の意味の様態をみると、多弁(312番、313番)、食欲(315番~319番)、生計(329番)、談合(335番)、軽率(340番)、慎重(341番)がある。

日本人学習者がよく間違えるのは、341番「입이 무겁다」である。これは「口が堅い」という意味で、日本語直訳にすると「口が重い」になる。要するに、「입이 무겁다 (口が重い)」にするべきところを日本語直訳にした「입이 딱딱하다 (口が堅い)」と言ってしまふことがよくある。

(表 1 3)

番	慣用句	ア	イ	逐語訳 (日本語)	慣用句の意味 (日本語)
305	입 밖에 내다	C	71	口の外に出す	もっている考える表明する
306	입김에 오르내리다		37	口に上る	うわきになる
307	입김을 날다	F	59	息遣いを入れる	圧力をかける
308	입김이 세다	D	64	息遣いがつよい	影響力が強い
309	입김이 여러다		41	息遣いがこもっている	情がこもっている
310	입내를 내다		33	口真似を出す	ものまねをする
311	입덧이 나다	E	63	つわりが出る 口に障りが出る	つわりをする
312	입만 살다	A	83	口だけ生きている	口が達者だ
313	입만 아프다	A	80	口だけ痛い	言った甲斐がない・言ったって無駄だ
314	입맛대로 하다	C	70	口当たりにする	勝手に振舞う
315	입맛을 다시다	A	82	食欲で舌なめずりする	食い気が出る・欲が出る
316	입맛이 당기다	A	83	食欲が出る	食べたくなる・興味を持つ
317	입맛이 돌아	A	80	食欲が回る	食欲が出る
318	입맛이 떨어지다	B	76	食欲が落ちる	興味を無くす・食欲がなくなる

319	입맛이 쓰다	D	67	口の味が苦い	食欲がない・思うとおりに ならなくて腹立たしい
320	입방아를 찧다	D	66	口の臼を搗く	人のうわさをする
321	입술을 깨물다	B	77	唇をかむ	くやしさを苦痛を耐える 決意を固める・唇をかむ
322	입 안의 혀갈다		24	口の中の舌のようだ	換る人の考えのとおりに動 く
323	입에 거미줄 치다	C	74	口にクモの巣を張る	飢えている
324	입에 꿀을 바른 말	D	67	口に蜜を塗った言葉	きいて気分が良くなる言い 方・心にもないお世辞
325	입에 맞다	F	58	口に合う	口に合う
326	입에 발린 소리	B	79	口に塗られた言葉	心にもないお世辞
327	입에 올리다	D	65	口にあげる	うわさをする
328	입에 침이 마르다	B	77	口に唾が乾く	人を褒めちぎる
329	입에 풀칠을 하다	A	80	口にのりを塗る	家計がきびしい
330	입에서 젖내 난다	F	56	口から乳の匂いがする	年齢が若い
331	입을 놀리다	C	72	口を遊ばせる	無駄口をたたく
332	입을 다물다	B	77	口を閉じる	口外しない
333	입을 떼다	F	59	口を割る	口を割る
334	입을 막다	C	70	口をふさぐ	口を止める
335	입을 맞추다	A	81	口を合わせる	口合わせをする
336	입을 모으다	C	73	口を集める	人と同じことを言う
337	입을 씻기다		25	口を洗わせる	口止めをする
338	입을 씻다	F	47	口を洗う	知らんぷりをする・白を切る
339	입을 열다	C	74	口を開く	口を割る
340	입이 가볍다	A	81	口が軽い	口が軽い
341	입이 무겁다	A	83	口が重い	口が堅い
342	입이 싸다	A	81	口が軽い	口が軽い・失言をする
343	입이 쓰다		42	口が苦い	食欲がない・精神的につらい
344	입이 천근 같다	E	60	口が千斤のようだ	口が堅い

13) 코 (鼻)

上記の「입 (口) に関する慣用句」がその器官の機能と関連する意味を表す慣用句が主であるのに対して、「코 (鼻) に関する慣用句」は日本語も韓国語も嗅覚関連の慣用句は、ほとんど見当たらない。提示した 21 項目の慣用句のうち嗅覚関連の慣用句は、354 番「코를 찌르다」一つしかない。このいったことは、日本語にも見られる。「코 (鼻) に関する慣用句」表現は、自慢、得意、傲慢、冷笑などがある。

348 番「코가 높다」は、日本語の「鼻が高い」と同一の意味を持つ単語で構成されているが、108 番「눈이 높다」と同様、両国語では意味のズレが生じる。日本語の「鼻が高い」は、「得意である、または誇りに思う」の意味が普通だが、韓国語の「코가 높다」は、日本語にあるような意味より「偉ぶる」の意味で一般に使われる。

(表 14)

番	慣用句	ア	イ	逐語訳 (日本語)	慣用句の意味 (日本語)
345	코 골도 안 보인다	F	49	鼻の先が見えない	全然姿を見せない
346	코가 꺾이다	F	52	鼻が刺し通される	弱みを握られる
347	코가 납작해지다	B	78	鼻がべちゃんこになる	顔が潰される・面目を失う
348	코가 높다	A	82	鼻が高い	鼻にかける・得意げだ
349	코가 땅에 닿다	F	44	鼻が地面につく	深々と頭を下げる
350	코가 비뚤어지게	B	76	鼻が曲がるように	酩酊状態
351	코가 솟다		41	鼻がそびえる	意気揚々だ
352	코가 우뚝하다	F	48	鼻がよつきりしている	自慢げだ
353	코를 맞대다	F	52	鼻を付き合わせる	親密に付き合う

354	코를 찌르다	F	53	鼻を刺す	悪臭が漂う
355	코빼기도 볼 수 없다	A	81	鼻すらも見られない	まったく姿を見せない
356	코앞에 닥치다	B	77	鼻の先に迫る	用が目先に迫っている
357	코에 걸다		36	鼻にかける	鼻にかける・自慢する
358	코웃음을 치다	A	81	鼻で笑いをする	鼻で笑う
359	코침을 주다		5	鼻に絨(はり)を打つ	人を怒らせる
360	코털이 세다		13	鼻毛が白くなる	思うように行かず、いらいらする
361	코허리가 저리고 시다		9	鼻の腰が痺れて痛む	自頭が熱くなる・涙ぐむ
362	코김이 세다	D	65	鼻息が荒い	影響力が大きい
363	코대가 높다	A	84	鼻柱が高い	傲慢だ・横柄だ
364	코대를 꺾다	B	78	鼻柱を折る	鼻柱を折る
365	코대를 세우다	B	79	鼻柱を立てる	鼻にかける
366	코방을 맞다		13	鼻先を叩かれる	げんこつを食らう
367	코방귀를 췌다	B	76	鼻でおならをする	鼻であしらう

6. 新たに出現した慣用句

時代の流れとともに新しく出現する慣用句もある。(表15)の項目がそれにあたる。調査から得られたものとインターネットから入手したものである。(表15)の「①간이 배 밖으로 나오다」は(表3)の28番の「간덩이가 붓다」と同様の意味として使われている。しかし、「①간이 배 밖으로 나오다」のほうが「간덩이가 붓다」より大胆の程度が高い。「②목에 깁스를 하다」は、(表8)の200番の「목이 뻐뻐하다」と似た意味で使われている。「③배 찢다」は、(表9)の221番の「배짱을 툭기다」と同様な意味で、「배짱을 툭기다」よりさらに「過激的」になっている。「④얼굴도장을 찍다」は、(表12)の293番の「얼굴을 내밀다」と似た意味として使われている。「⑤개념이 없다」においては、「まともな考えができない」、「礼儀がない」という意味で使われている。「⑥안구에 쓰나미」と「⑦안습」は、「悲しくて涙ぐむ」というニュアンスで使われている。「⑧안구에 쓰나미」の「쓰나미」は、日本語の「津波」のことで日本語の発音をそのまま使っている。「⑧짜고 치는 고스톱」は、身体に関する慣用句ではないが、新種慣用句として出した例で、既にできている脚本通りに事が運ばれることを意味する。

(表15)

慣用句	直訳的な意味	日本語の意味	収集
① 간이 배 밖으로 나오다	肝が腹の外に出る	大胆になり過ぎている	調査による
② 목에 깁스를 하다	首にギブスをする	傲慢この上ない	調査による
③ 배 찢다	腹を切る	捨て鉢になる	調査による
④ 얼굴도장을 찍다	顔ハンコを押す	出席を認めもらうためにわざと顔合わせをする	調査による
⑤ 개념이 없다	概念がない	礼儀が無い	www.naver.comによる
⑥ 안구에 쓰나미	眼球に津波	涙ぐむ	www.naver.comによる
⑦ 안습 (안구에 습기차다)	眼球が濡る	涙ぐむ	www.naver.comによる
⑧ 짜고 치는 고스톱	仲間がぐるになってやる花札	グルになっている	www.naver.comによる

7. おわりに

この研究により韓国語の数多い身体語彙慣用句の中で、韓国で実際よく使われている慣用句が何かを把握することが出来た。これを基に教育現場で学習者により充実した慣用句

表現の教育を目指して、日韓両国語の慣用句の異同に気づかせ、韓国人とより円滑なコミュニケーションが取れるようにし、日韓比較文化論を構築し、ひいては日韓文化交流の一助にもなれば幸いである。そして数は少ないが、辞書には載っていないものも新たに発生して、使われている慣用句も知ることができた。これも教育現場で活用したい。

20年ほど前によく使われていた慣用句が現在では使われないことがあるなど、改めて言葉の歴史性や社会性を実感した。この研究によって、韓国語学習者において、慣用句学習の面で役立つであろう。実際に調査の結果をまとめたリストがほしいと大勢の学習者から要望もあり、これを生かすためホームページの公開も検討している。

謝辞 本稿は、第6回信州大学国際言語文化研究会(2007年12月7日)において、口頭発表した原稿の前半部を加筆修正したものである。発表にあたって御指導を賜った大島征二・松岡俊裕・馬瀬良雄先生をはじめ、多くの方々を中心に御礼申し上げ、調査に協力してくださった李嗜洙先生と清州大学の学生の皆さんに心より御礼申し上げる。

注

1 例えば、日本語の慣用句「顔が広い」は、韓国語に直訳すると「얼굴이 넓다」になって意味が通じなくなる。日本語の「顔が広い」という意味として使われる韓国語の慣用句は「발이 넓다」(日本語訳:足が広い)と言わなければならない。

2 『慣用句辞典』(박영준他, 태학사, 1996年)によれば、見出し語として3,778件のなかで身体語彙に関わる見出し語は1,546件数で約41パーセントに達するほどである。

主要参考文献

- 권익호(2006) 『한일 양국 신체어휘 관용어의 비교·대조 연구』 충남대학교 대학원 박사학위논문
- 김향숙(2003) 『한국어 감정표현 관용어 연구』 한국문화사
- 남광우·이응백·이을환(1991) 『국어대사전』 국어사전편찬회편 민중서관
- 박영준·최경봉(1996) 『관용어 사전』 태학사
- 신기철·신용철(1974) 『새 우리말 큰사전』三省出版社
- 임팔용(2006) 『한·일 신체어휘 관용어의 대조연구』 한국외국어대학교 일본연구소 발행 제이앤씨
- 崔宅浩(2004) 『韓・日兩言語의 身體語彙를 使用한 慣用表現 研究』 語文學社
- 井上宗雄(1992) 『例解慣用句辞典』創拓社
- 大野晋、柴田武編(1997) 「語彙と意味」『岩波講座日本語』岩波書店
- 国広哲弥(1985) 「慣用句論」『日本語学』1月号 明治書院
- 小学館国語辞典編集部(2006) 『精選版日本語大辞典』小学館
- 新村出編(2008) 『広辞苑』第6版 岩波書店
- 林八龍(2002) 『日・韓兩國語の慣用的表現の対照研究』明治書院
- 星野命(1976) 「身体語彙による表現」『日本語講座』第4巻 大修館
- 油谷幸利他編(1993) 『朝鮮語辞典』小学館
- 和田節(1969) 「からだことば考」『思想の科学』94 思想の科学社

(信州大学 全学教育機構 外国語准教授)
2008年2月15日 採録決定